

若年層の社会移動の状況（追加報告） － 19市町村のヒアリング結果 －

令和2年9月29日の本委員会において、6市についての標記ヒアリング結果を報告。

その後、他の13市町村に対してもヒアリングを行ったため、今回、改めて全19市町村の状況を報告するもの。

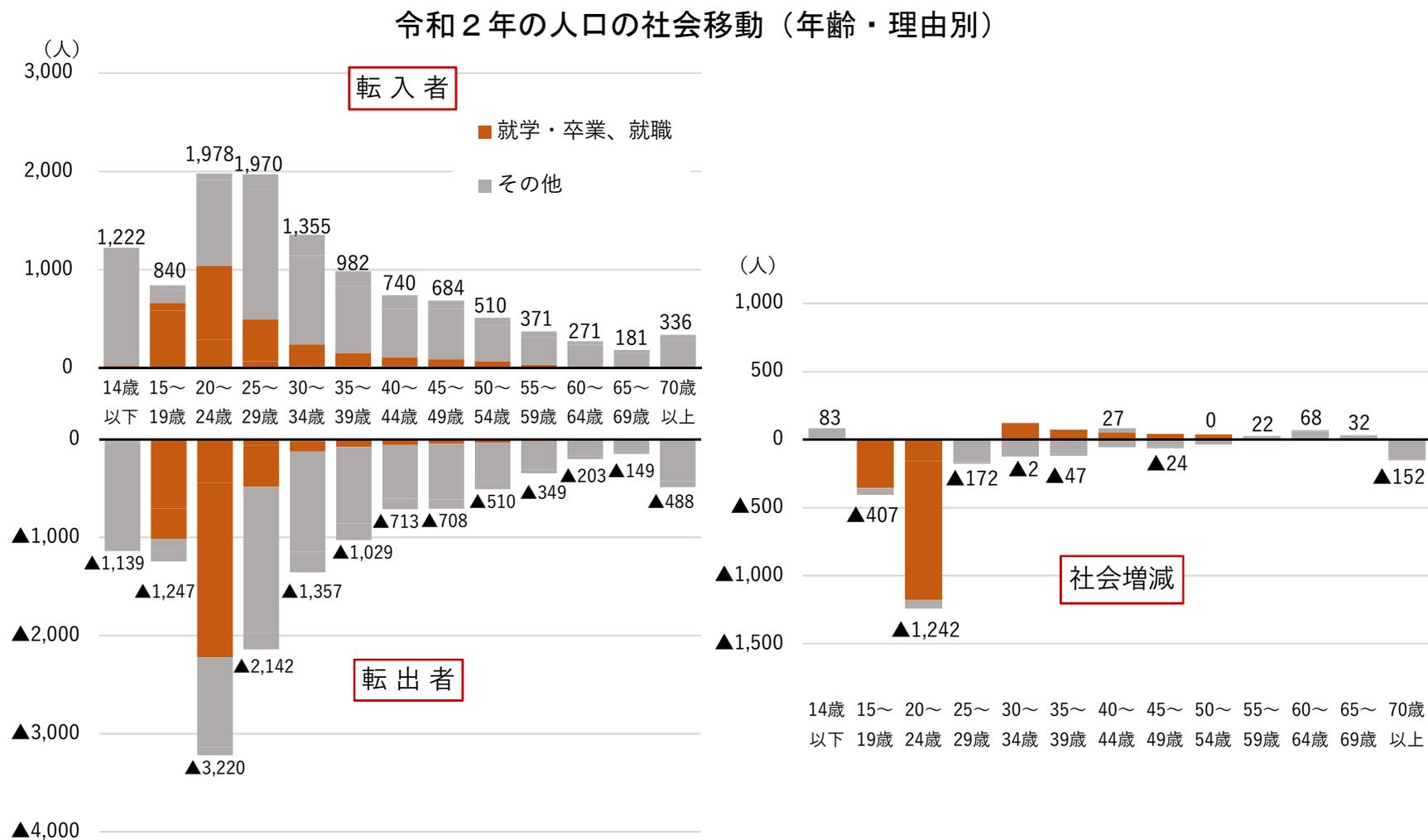
また、令和2年の人口データについて、前回は令和元年10月から2年7月までの数値（10か月分）であったため、今回、令和2年9月までの数値（12か月分）に更新。

目次

1. 島根県の人口の社会移動	p2
2. 15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動	p3
3. 市町村ヒアリング 結果の概要	p4
4. 市町村ヒアリング 個別の概要	p5
5. 参考資料	p15

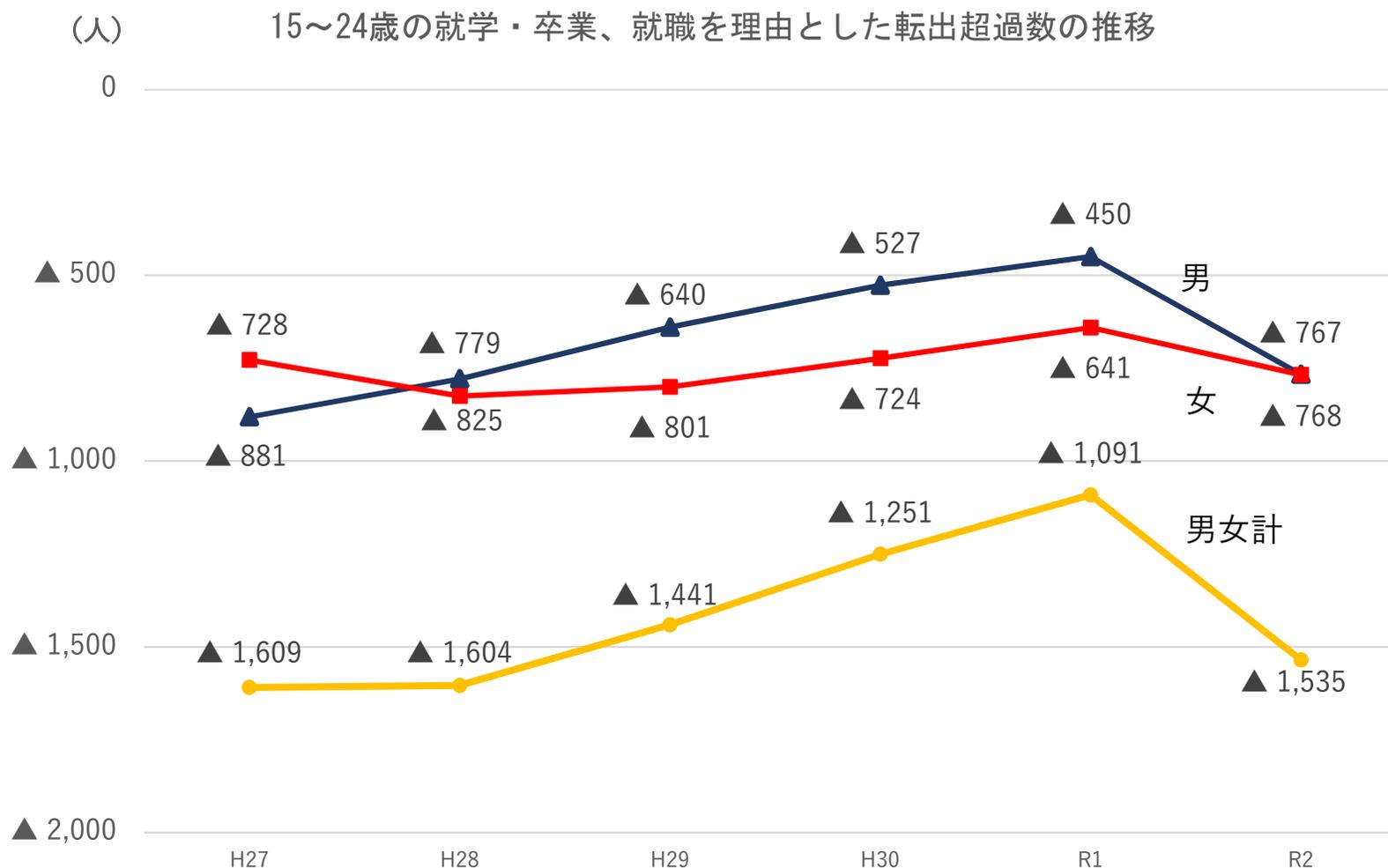
1. 島根県の人口の社会移動

- 島根県の社会移動の減は、15～24歳の若年層の就学・卒業、就職による転出が主な要因



2. 15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動

- 15～24歳の若年層の就学・卒業、就職による転出超過数は、近年、回復しつつあったが、令和2年は男女ともに前年より転出超過数が増加。
- 特に男性の転出超過数が、前年に比べて大幅に増加。



3. 市町村ヒアリング 結果の概要

- 若年層の社会移動の状況について、県内19市町村に対し、令和2年8月から3年2月にかけて聞き取りをしたところ、以下のような課題認識と取組事例があった。

① 進学による転出

〔課題〕 大学はもとより、町村によっては高校が無いなど、地元進学先が限られている。進学を機に地元を離れ、そのまま地元外で就職するというケースも多い。

〔取組事例〕 進学前から地元への愛着を育む取組（ふるさと教育、カタリバ、企業との交流）
進学後も関係を持ち続ける取組（大人の島留学、奨学金） 等

② 希望する職種と求人 mismatches

〔課題〕 女性では事務系職場の希望が多いのに対し、求人は医療・福祉・保育が多いといった mismatches があり、地元就職希望者の受け皿となる職場が少ない。

〔取組事例〕 事務職も活躍できるIT企業の誘致
通勤圏域での自治体間の広域的な連携
社会医療法人と連携した専門人材の育成確保 等

③ 希望する住宅の不足

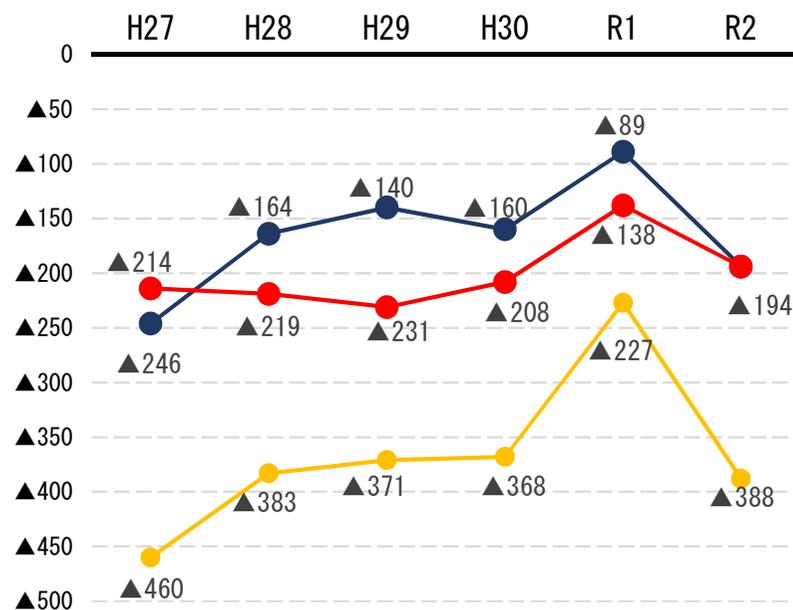
〔課題〕 若年層の希望する住宅（アパート）が少なく、就職や結婚を機に転出につながる。

〔取組事例〕 公営住宅整備、空き家活用、住宅取得支援等に多くの市町村が尽力
住宅施策に若者や女性の意見（間取り等）を反映 等

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その1）

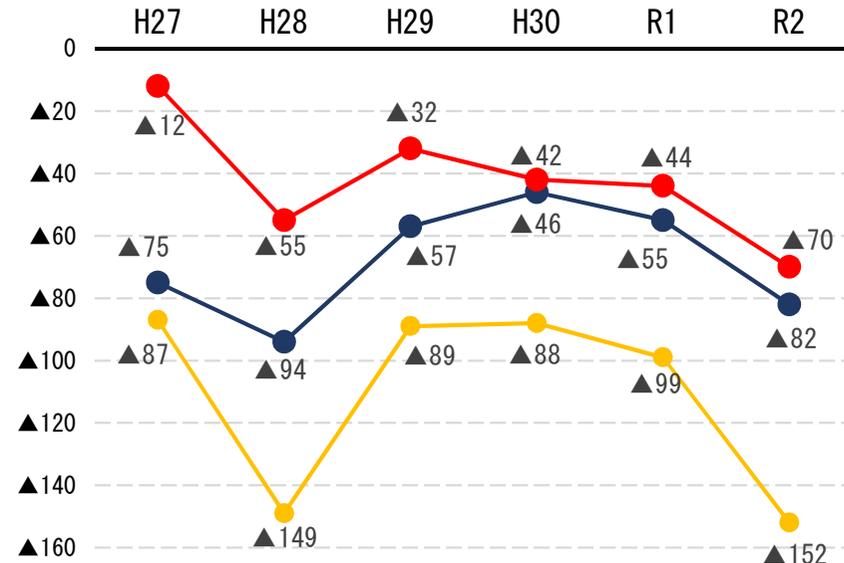
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【松江市】 (R2. 9. 29報告)



- ・特に対県外での転入出者数の総数は、女性より男性が多いが、転出超過数で見ると、女性が多い傾向になっている。
- ・松江市の就業人口は、医療・福祉分野で女性の割合が高く、この業種は今後、大都市圏で需要が高まることが予想され、人材が流出することが懸念される。
- ・女性の希望が多い事務職などでは、求人より求職が多く、ミスマッチが生じていると考える。

【浜田市】

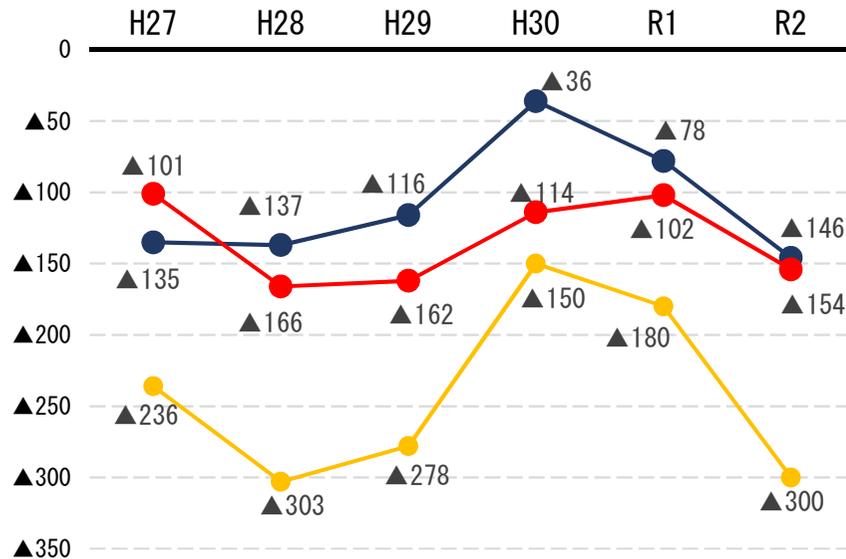


- ・男性の転出超過が多い要因の一つとして、広島市が近いことから、そこへ就職する傾向が強い等の影響が考えられる。
- ・要因分析について、令和4年度の次期総合振興計画策定に向け、アンケートの実施による現状把握を検討中。
- ・若者会議(10名程度)を設置し、若い世代の定住促進等をテーマに政策提案をもらうことを検討中。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その2）

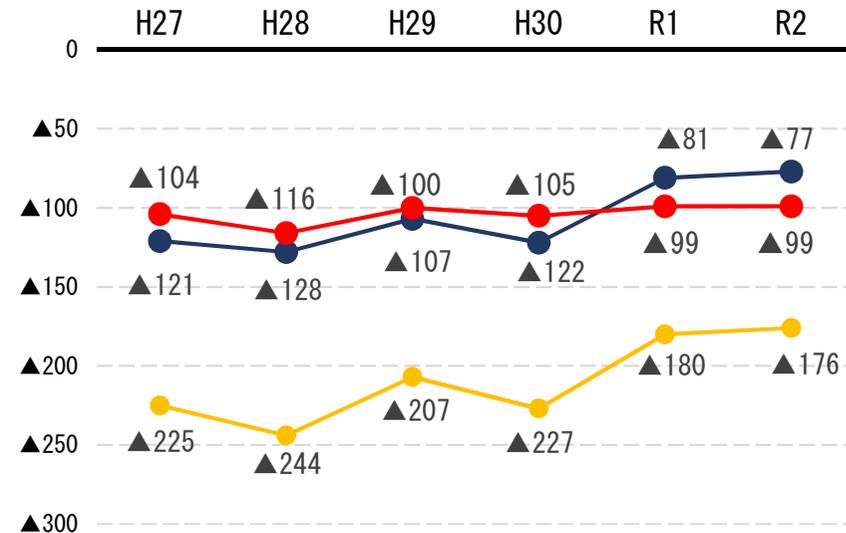
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【出雲市】(R2. 9. 29報告)



- ・男女別の差としては、製造業の好業績により男性の転入が増えていることが要因である印象。
- ・医療人材を育成する学校はあるが、待遇の良い都市部に奪われている。
- ・IT業界で女性が活躍している例があるが、そのようなイメージが学生にないかもしれない。
- ・全年齢では外国人の転出入の影響は大きいですが、この年齢層だと、男女差への影響は大きくないと思われる。

【益田市】(R2. 9. 29報告)

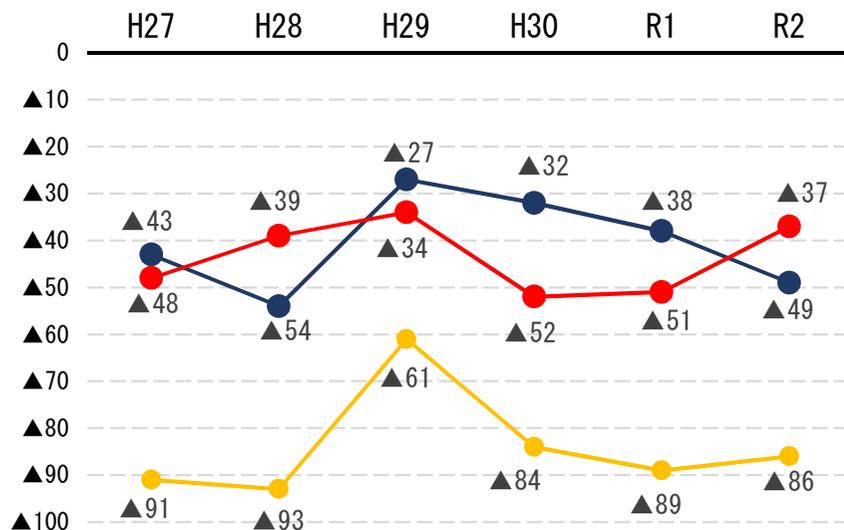


- ・現時点では、女性の流出が男性に比べて特に多いというまでの印象は持っていない。
- ・進学・就職による県外流出先としては、特に広島が多い。
- ・平成28年度から「カタリバ」等のライフキャリア教育の取組により、子どもたちの意識の変化が表れている。
- ・ライフキャリア第1期生(当時の高校3年生)が今春大学を卒業することから、今後その効果及び効果の継続が期待される。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その3）

※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

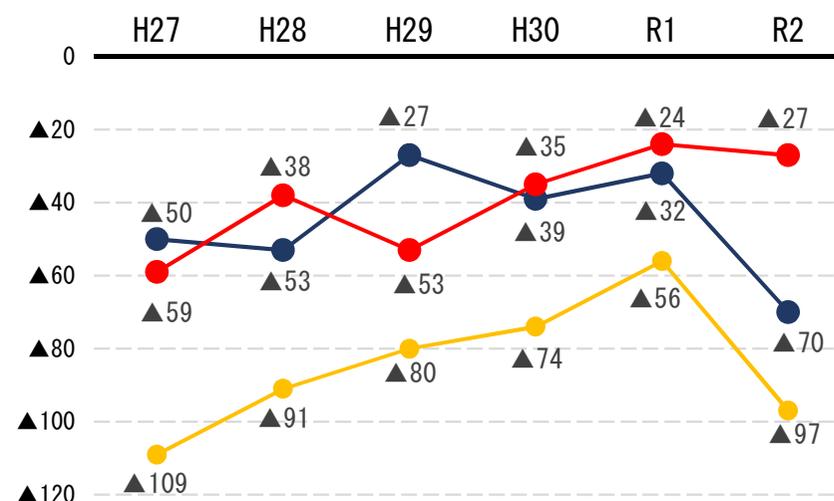
【大田市】 (R2. 9. 29報告)



- ・平成30年に出生数が初めて200人台を切ったことを分析したところ、20歳から24歳の女性が特に少ない状況であることから、その対策を始めている。
- ・転出は広島方面が多く、大学生等に帰ってもらう対策が必要である。
- ・IT企業の誘致により、新卒も含め若い女性の貴重な雇用の場となっている。
- ・UIターンの相談窓口には、セカンドライフを考えている方などが来るが、若い方の利用は少ない。

【安来市】

● 男性 ● 女性 ● 男女計

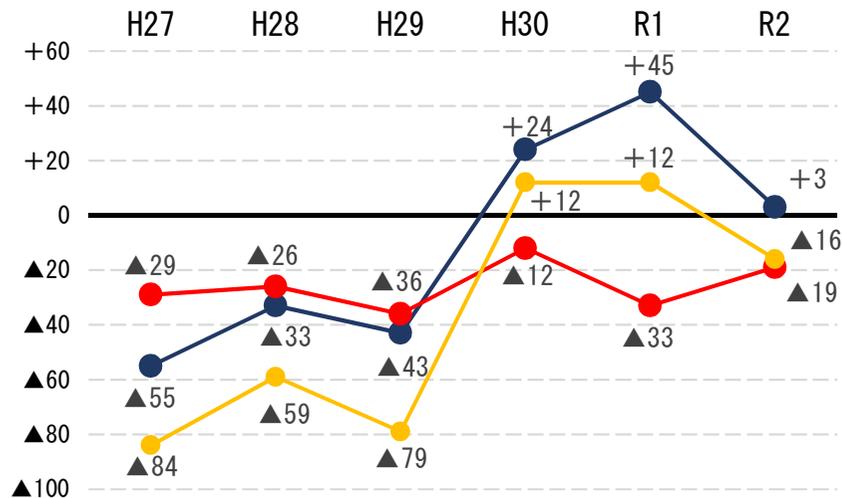


- ・市内に大学等がないため、進学希望者の大半が市外に転出する状況。
- ・女性や若者の希望職種が市内に不足するため、就職のタイミングで転出する若者が多い。
- ・製造業の求人数の低下も転出超過数の一因となっていると考えられる。
- ・女性の転出が比較的緩やかなのは、外国人研修生の男女比(2:3)の影響と推定。
- ・市内から市外へ通勤する人はいるが、利便性や交通渋滞による通勤時間の問題等から勤務地へ転出する例もあり。

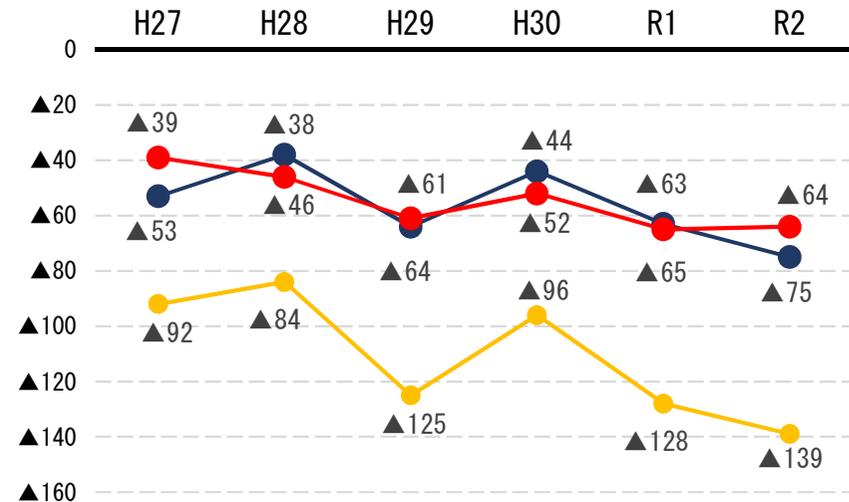
4. 市町村ヒアリング 個別結果（その4）

※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【江津市】 (R2. 9. 29報告)



【雲南市】 (R2. 9. 29報告)



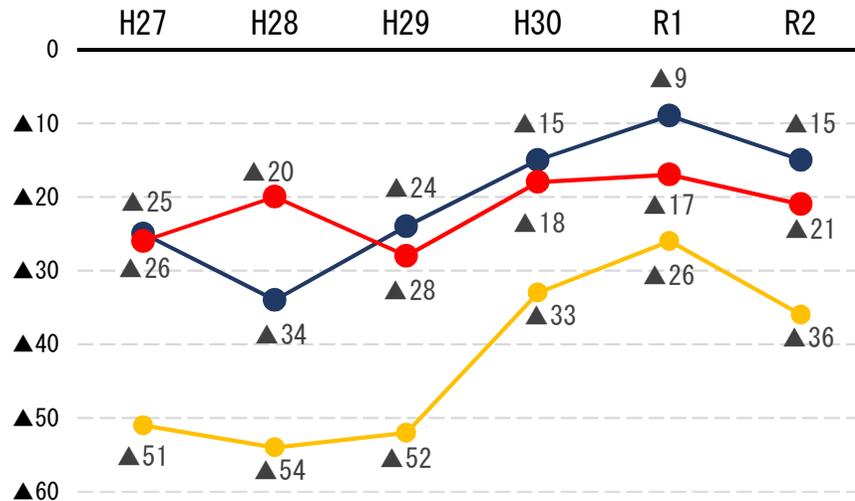
- ・男性については企業誘致等による雇用の増加により社会増。
- ・一方、女性は大卒総合職として働く場が少ないため、市外に出て行っている。
- ・仕事の選択肢が少ないのが、一番のネック。
- ・情報発信にあたり、「おしゃれ」をアピールすることがポイントと考えている。
- ・ふるさと・キャリア教育等により、高卒の市内就職率が上昇傾向にある。

- ・進学で市外、県外に出てしまい、そのまま市外、県外に就職してしまっている。
- ・一方、感覚的には、本市では女性本人の地元志向は強く、県外も広島など近場が多い印象（近くで親に頼れる環境が好まれている）。
- ・女性や若者が希望する事務系、IT系の職場が少なく、こうした企業の誘致に取り組んでいる。
- ・若い世代は、田舎の付き合いや、市内にアパートが少ないこと等から、松江市や出雲市に転出することもある。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その5）

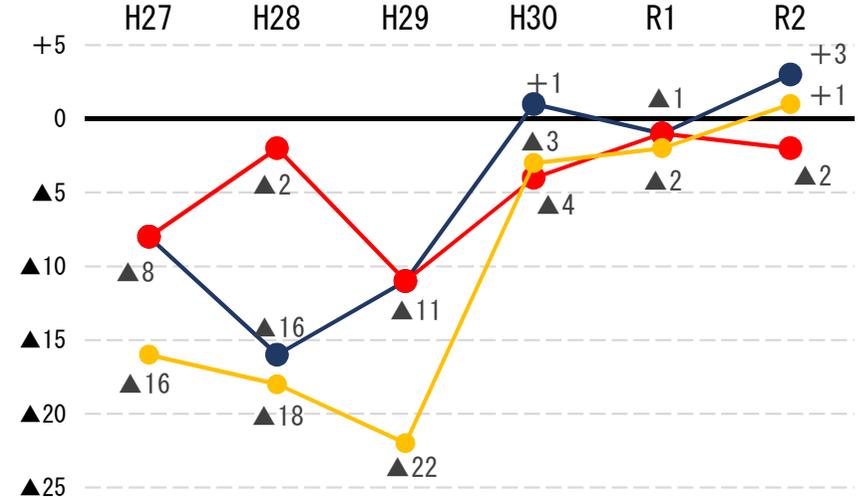
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【奥出雲町】



- ・男性に比べて女性の転出者が多く、一旦転出すると戻る割合が低く、婚姻数減等の要因。
- ・女性の就職先が介護・医療・保育など職種が限られており、事務系・サービス業といった職場が少ないことが流出の一要因。
- ・若者世代(女性)流出の理由として、田舎特有のつながりの深さが考えられる。
- ・町内では安価できれいな住宅(アパート)がないことから、近隣市へ転出するケースあり。

【飯南町】

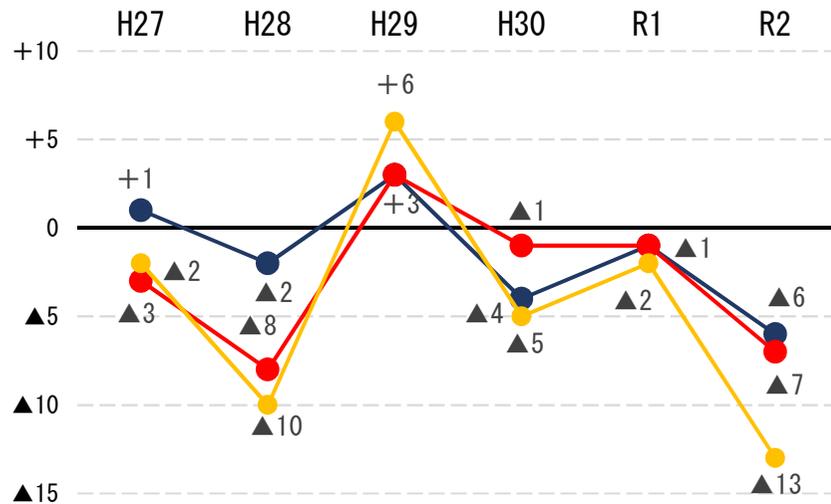


- ・高校魅力化の取組により、飯南高校の半数は町外、県外からの進学者。飯南高校の寮には50名程度居住しており、平成30年頃より住民票の住所変更について呼びかけ。
- ・飯南高校の寮生徒について、ホストファミリー制度(県外生対象の里親制度)など地域住民と交流する機会を設ける。
- ・町内企業と高校生のマッチングの機会を設けているが、求人内容とニーズが合致しない場合も多い。

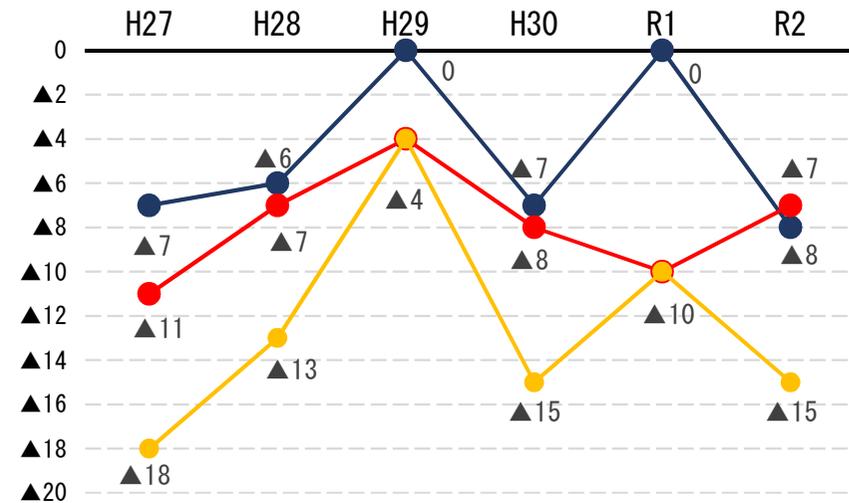
4. 市町村ヒアリング 個別結果（その6）

※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【川本町】



【美郷町】



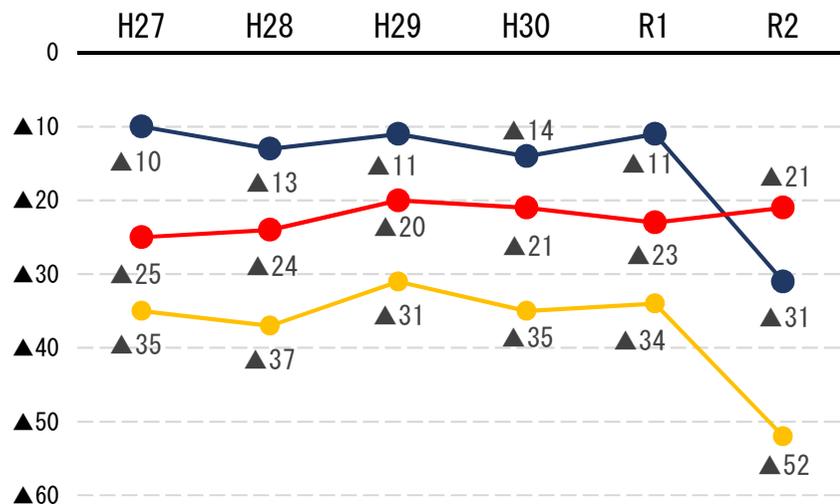
- ・新卒者の勤務先が町内に少ないことから、町内の雇用先の確保に加え、おおち・さくらえ雇促協等と連携した広域的な取組も推進。
- ・大口雇用先である町内の社会医療法人と連携し、専門人材の育成に向けた取組を検討中
- ・移住促進策は、独身の若年層ではなく30～40歳代の子育て世代をメインターゲットにした、住まい・教育環境の充実などの施策を展開。
- ・転出者は進学に伴う転出がほとんどであり、将来のUターンに向けた地域の愛着を高める取組を実施。

- ・町内に高校がなく、進学時に一定数転出するため、その後の動きを把握できない状況。
- ・就業者の約65%が町外（大田市、出雲市、江津市、三次市）に通勤。
- ・高校、大学進学者を対象とした奨学金を支給している他、25歳までの集いの場の開催による町の魅力発信を検討中。
- ・近隣市への就職を機に居住地としての転入を促進する必要性を認識。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その7）

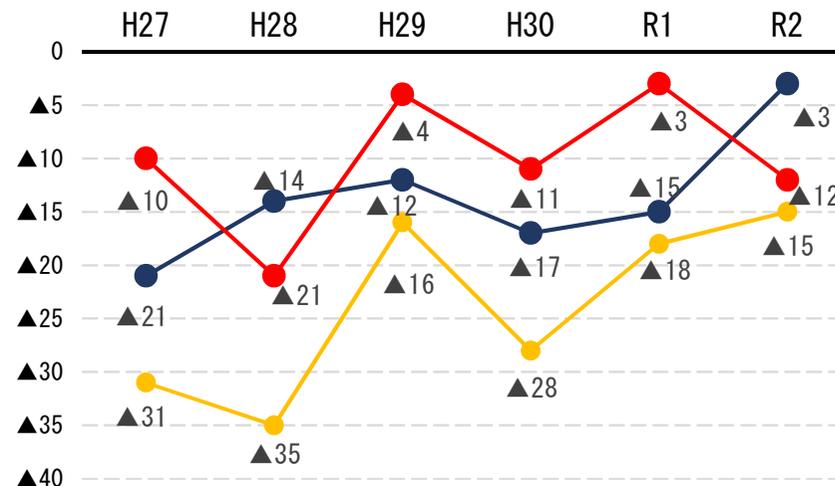
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【邑南町】



- ・15歳から24歳の転出先の多くは県外で、特に広島市が生活圏内にあることから、選択されやすい傾向にある。
- ・20代の転入超過は子育て世代と地域おこし協力隊の転入が要因と推定。
- ・県内でも高水準の合計特殊出生率の要因は、10年前から、先行して子育て支援に取り組んできたことの成果。
- ・若年層や子育て世代が移住しやすい民間賃貸住宅整備が課題。

【津和野町】

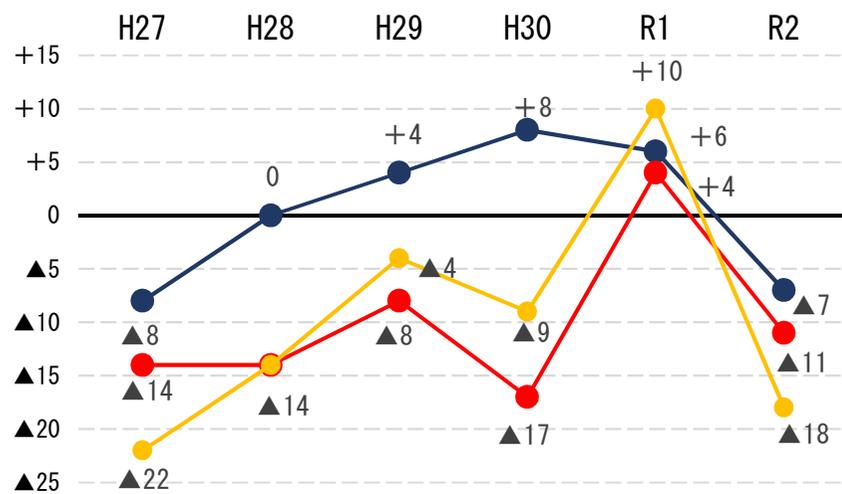


- ・高校卒業後の進学先は町外が主なため、その進学者がそのまま就職するというパターン。
- ・県外移動は、男女とも山口県、次いで広島県が多い。
- ・町内に若者が希望する事務系職場が少ない。
- ・これまで、主としてIターン対策を推進してきたが、今後はUターン対策にも力を入れるため、その内容を検討中。
- ・平成28年度に設置した「津和野町女性会議」からの女性目線の提案(定住促進住宅の間取り等)を施策に活かしている。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その8）

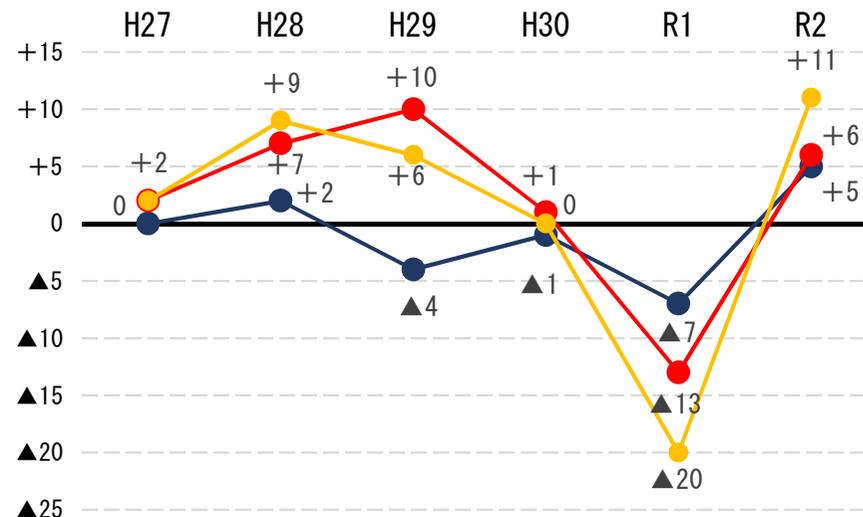
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【吉賀町】



- ・人口移動の変動要因として、人口の3%を占める外国人の影響が考えられる。
- ・平成28年以降、転出超過が好転した要因の一つには、高校へのしまね留学が挙げられる。
- ・六日市学園から六日市病院への就職者は、奨学金の償還免除となる3年間の義務期間終了後に転出する傾向がある。
- ・昼間人口の流出で一番多いのは岩国市であるが、県外であり、特に岩国市と連携した取組はない。

【海士町】

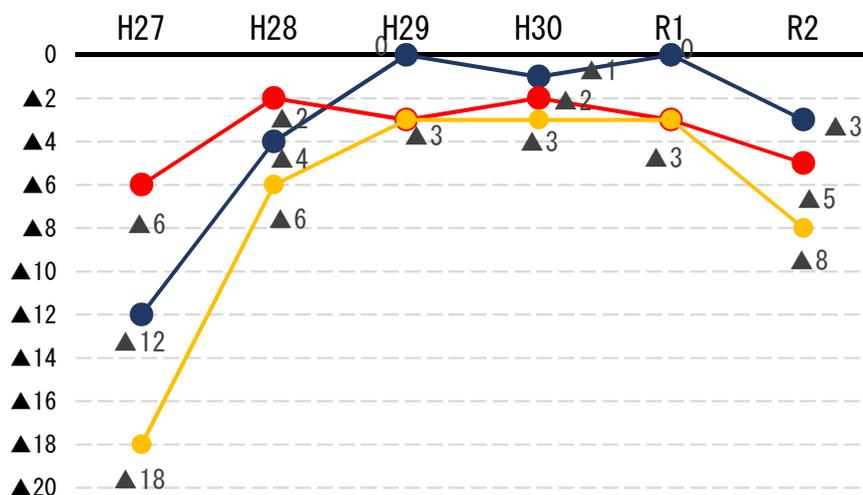


- ・島前高校の入学・卒業が県外移動に影響。
- ・令和2年度から島前高校卒業生を中心とする若者に1年間(R2は半年)、島の仕事や暮らしを経験してもらう「大人の島留学」を開始、21名の若者が参加。
- ・実感として、地方や離島に関心があったり、関連イベントへの参加や問い合わせは女性の方が多いという印象。
- ・関東からの転入が多いが、これまでの移住者の繋がりや紹介によるものが多いと推測。
- ・島前高校は、コロナ禍で、オンライン説明会を重ね、東北からなどの転入希望も増加。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その9）

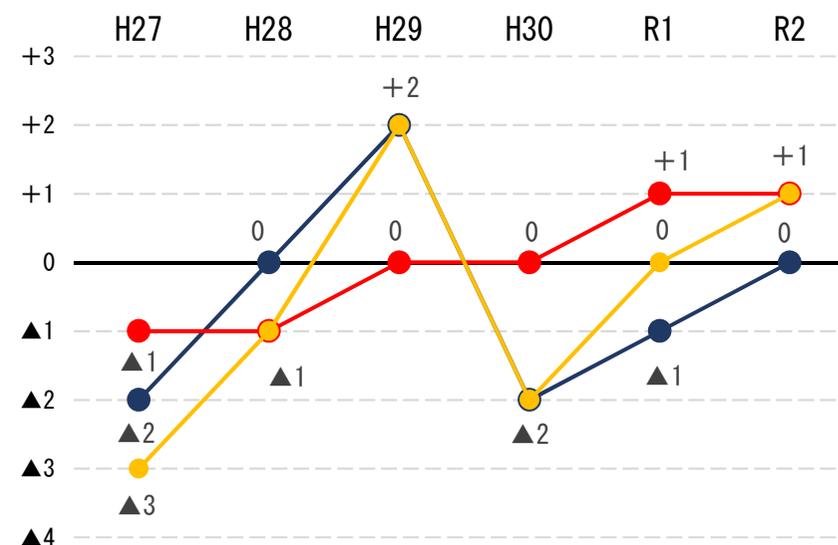
※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【西ノ島町】



- ・町内に高校がないため、高校進学時に転出するが、町内の就業場所や職場が少ないことから、大学卒業後は町外に就職する状況。
- ・離島のため、町外、県外で就職した方がよいという意見を持つ親もいる。
- ・男性は漁業などのIターンの募集が復活しつつあるが、女性は保育・医療など働く場が限られるため、職場づくりが課題。
- ・Iターン者のうち、子の進学に合わせて世帯で町外・県外に転出するケースあり。

【知夫村】

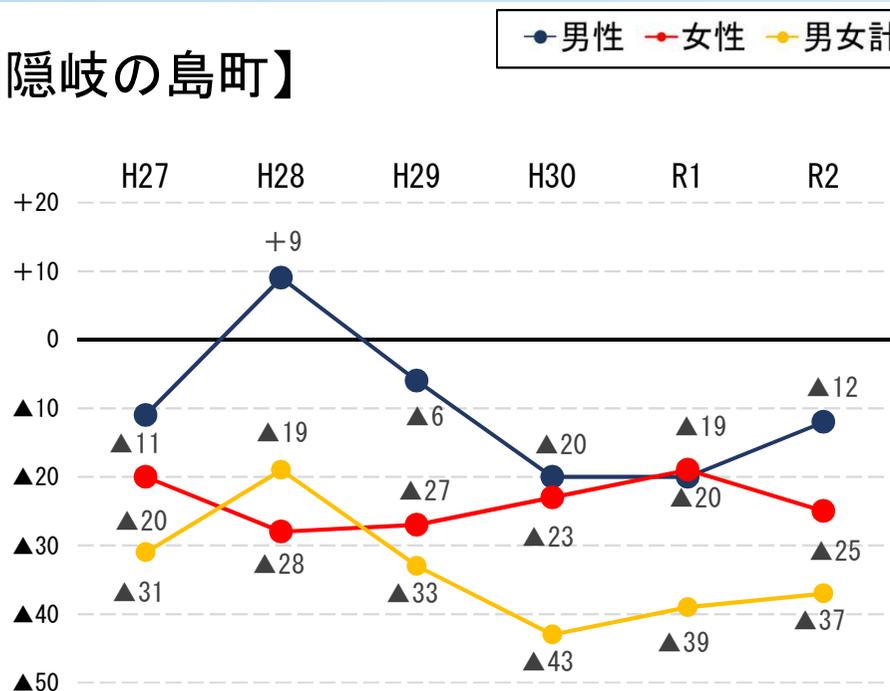


- ・15歳から24歳人口の移動は、転出については高校進学時の転出、転入については公務職場への就職、地域おこし協力隊、島留学生(小中学生)、島留学に関する関係者が主な要因。
- ・村内での結婚や出生も増えており、近年の人口増に貢献。
- ・村営住宅の整備や空き家改修により転入者の住宅確保に力を入れているが、需要に追いついていない状況。

4. 市町村ヒアリング 個別の概要（その10）

※ 各グラフは15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移

【隠岐の島町】



- ・以前から進学・就職を機に町外に出て行く傾向があり、卒業後に町内に若年層が求める事務系の職場が少ないため、流出する状況。
- ・29歳まで広げると女性の転入者が増える傾向にあり、実感として男女差はない。
- ・医療・介護の求人が多いが、より好待遇を求めて町外で就職する場合は特に女性に多い。
- ・最近では、Uターン者の安定志向から公務職場の人気の高く、一次産業においても自営より雇用志向が高い状況。

5. 参考資料 15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動、市町村別

- 市町村別では、16市町で転出超過となっている。
- また、男性は14市町で、女性は17市町で転出超過となっている。

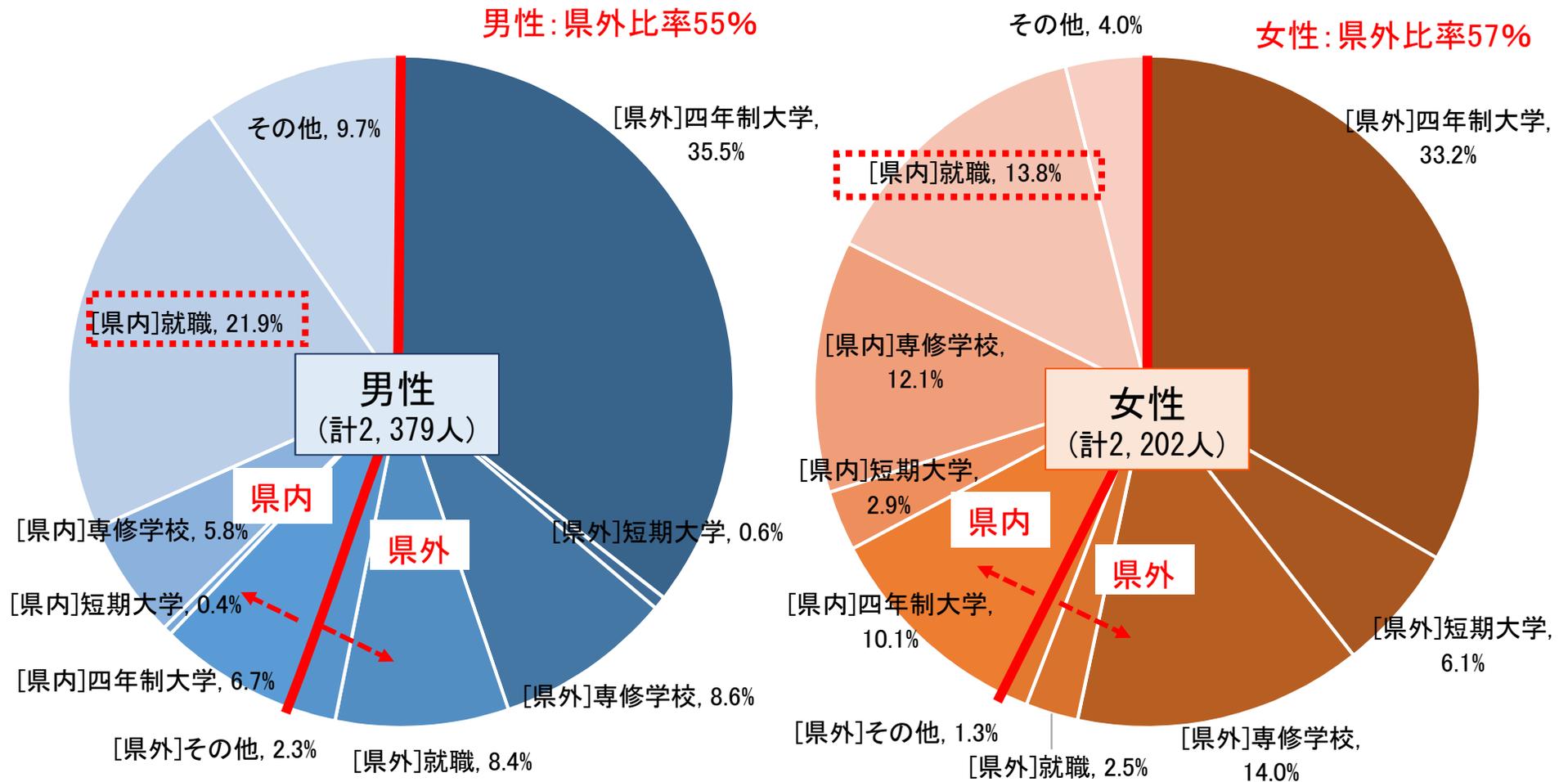
15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動（市町村別（令和2年））

団体名	合計			男性			女性			団体名
	転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減	
松江市	708	1,096	▲388	414	608	▲194	294	488	▲194	松江市
浜田市	210	362	▲152	110	192	▲82	100	170	▲70	浜田市
出雲市	331	631	▲300	188	334	▲146	143	297	▲154	出雲市
益田市	61	237	▲176	38	115	▲77	23	122	▲99	益田市
大田市	30	116	▲86	16	65	▲49	14	51	▲37	大田市
安来市	49	146	▲97	22	92	▲70	27	54	▲27	安来市
江津市	98	114	▲16	64	61	+3	34	53	▲19	江津市
雲南市	28	167	▲139	14	89	▲75	14	78	▲64	雲南市
奥出雲町	35	71	▲36	15	30	▲15	20	41	▲21	奥出雲町
飯南町	22	21	+1	15	12	+3	7	9	▲2	飯南町
川本町	14	27	▲13	10	16	▲6	4	11	▲7	川本町
美郷町	2	17	▲15	1	9	▲8	1	8	▲7	美郷町
邑南町	9	61	▲52	8	39	▲31	1	22	▲21	邑南町
津和野町	13	28	▲15	7	10	▲3	6	18	▲12	津和野町
吉賀町	20	38	▲18	15	22	▲7	5	16	▲11	吉賀町
海士町	43	32	+11	14	9	+5	29	23	+6	海士町
西ノ島町	6	14	▲8	5	8	▲3	1	6	▲5	西ノ島町
知夫村	2	1	+1	1	1	0	1	0	+1	知夫村
隠岐の島町	22	59	▲37	20	32	▲12	2	27	▲25	隠岐の島町
合計	1,703	3,238	▲1,535	977	1,744	▲767	726	1,494	▲768	

※市町村において、転出超過数のうち、男女比較で、転出超過が多い方の性別に着色している。

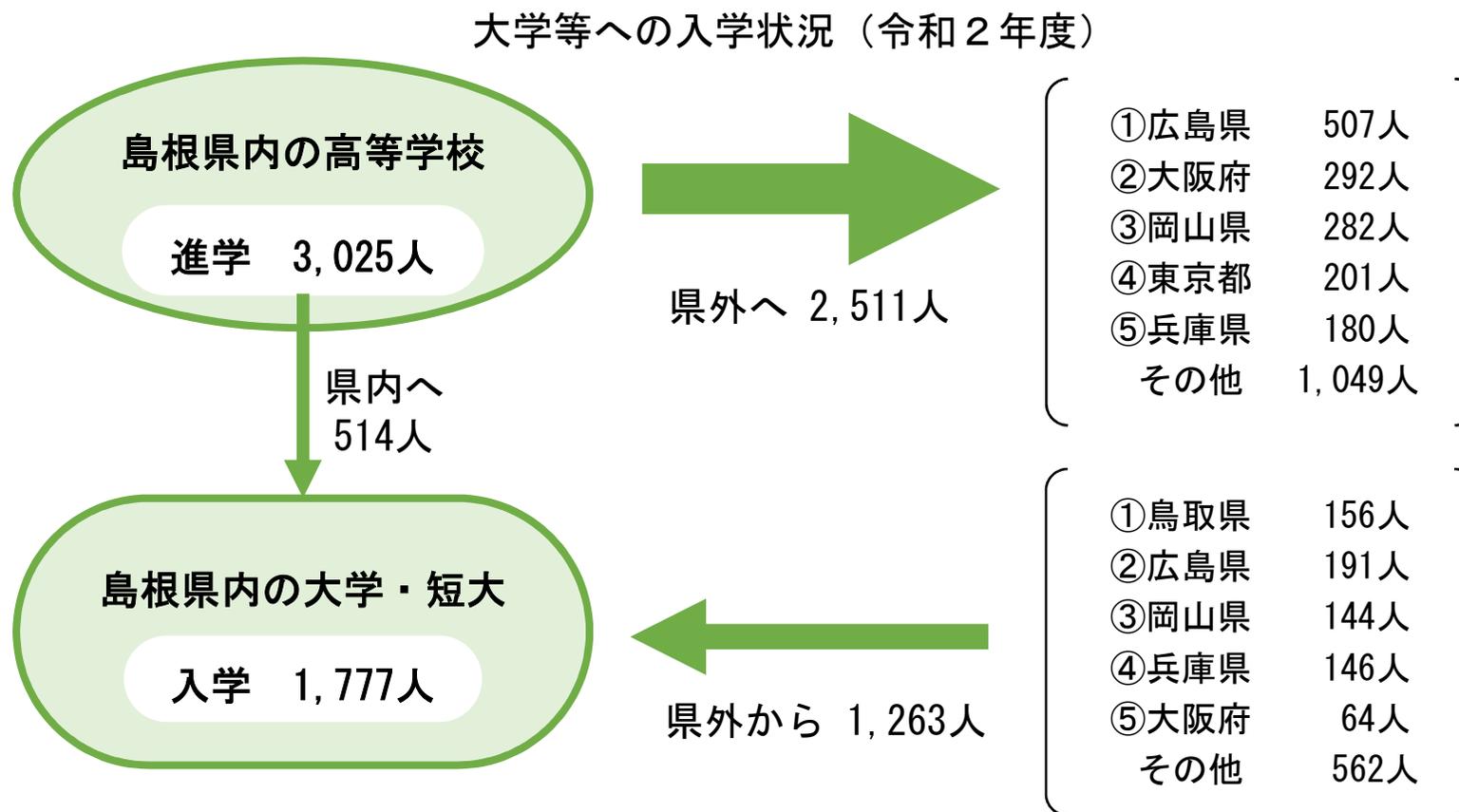
5. 参考資料 島根県の県立高校卒業生の進路状況（令和2年3月卒業生）

- 県立高校卒業生の進路における県内県外の比率について男女で大きな差はない。
- 県内外含め、男性の方が就職する割合が多い。



5. 参考資料 島根県内高校生の大学、短期大学への進学先の状況

- 県内高校からの進学者約3,000人のうち、約83%が県外大学・短大へ進学
- 県内大学等への進学者約1,800人のうち、約71%が県外高校からの進学



資料：「学校基本調査」（文部科学省）
 （注）大学、短期大学の計（令和2年度入学者ベース）